

# 生活者ネット こくぶんじ No.188 2026年4月

発行/国分寺・生活者ネットワーク 発行責任者/田中由紀  
連絡先/〒185-0024 国分寺市泉町3-33-16 西国分寺ハイツ103  
TEL:042-328-1864 FAX:042-328-1878  
http://kokubunji.seikatsusha.me/ E-mail:kokubunji@seikatsusha.net



国分寺市議会議員  
たかせ  
高瀬かおる



国分寺市議会議員  
こさか  
小坂まさ代



国分寺市議会議員  
まつおか  
松岡まり

## 国分寺ネット活動日誌

- 1月4日(日)年始困りごと相談会(国立市)参加
- 1月16日(金)こどもの居場所「ピカイチ」の見学実施
- 1月17日(土)訪問看護ステーションについて学習会参加
- 1月18日(日)日本子どもの本研究会東京セミナー参加
- 1月19日(月)市民連合@国分寺のアピール活動に参加
- 1月20日(火)「ごはんを作って食べるじかん」実施/「市民と議員一政治活動と選挙運動」調査研究会で報告
- 1月22日(木)図書館利用者懇談会参加
- 1月24日(土)「戸倉みんなの公園」で聞き取り調査実施
- 1月25日(日)バイバイ原発国分寺の会のアピール活動に参加/子どもたちのお話会実施/子どもにやさしいまちづくりワークショップ参加
- 2月2日(月)～3日(火)全国市町村議会議員研修「人口減少における地域の課題」に参加
- 2月3日(火)衆議院議員選挙ネット合同遊説
- 2月6日(金)東京都市議会議員研修会参加
- 2月7日(土)～8日(日)地方自治と子ども政策全国自治体シンポジウムに参加
- 2月8日(日)PFAS国分寺市民の会の講演会に参加
- 2月9日(月)野川の流量調査に参加
- 2月10日(火)学習会「土壌について」実施
- 2月11日(水)「子どもの権利の視点から教育を考える」学習会参加/モンゴルの草原とSATOYAMAトークイベント参加
- 2月12日(木)「共に生きる世界を描くブックスタート」講演会参加
- 2月13日(金)「子どもアドボカシー」講演会参加
- 2月19日(木)学習会「失語症を知ってください」に参加/市民連合@国分寺のアピール活動に参加
- 2月21日(土)バイバイ原発国分寺の会のアピール活動に参加
- 2月28日(土)「日本の海はきれいな海?」講演会参加
- 3月2日(月)野川整備に関する都の担当課との懇談に参加
- 3月8日(水)国分寺オモロー授業発表会参加
- 3月15日(日)バイバイ原発国分寺の会のアピール活動に参加/「子どもの権利と美術館」学習会参加
- 3月19日(木)市民連合@国分寺のアピール活動に参加
- 3月20日(金)ゆずりは活動報告会参加/「イタリアにおけるインクルーシブ教育」学習会参加
- 3月26日(木)市民懇談会「マサーヨが聞く」実施
- 3月28日(土)国分寺・生活者ネットワーク総会/フォーラム「居住支援の推進に向けて」参加
- 3月29日(日)「武蔵野の见えない自然」PFAS学習会参加

### 1/24 (土) 戸倉4丁目「戸倉みんなの公園」で要望を聞くシールアンケート実施

昨年新しくできた「戸倉みんなの公園」で利用者みなさんの声を聞きました。近くから来た方が多く、幼児の手を引くお父さん、小学生の家族連れや、犬の散歩の方もいらっしゃいました。高いネットで囲まれボール遊びができるエリアは、向かい合ってトレーニングをする方々が並び、かなりおぜいのときもあるようです。16台の駐輪スペースも満杯、通路にもあふれています。遠くから来る小学生もいるとのこと。



「マナーについて書かれている看板が中から見えず、どの入口から入った人にも見えるようにして」とのご意見ありました。「井戸で水遊びができる」「日陰のベンチを増やして。木陰がほしい」と夏に向けた意見もあります。それぞれの方々にほっとできる時と場を提供し、親しまれている公園になっています。みんなの貴重な意見を生かして、さらに心地よい使いやすい公園として育てていきたいですね。(田中由紀)

※聞き取り調査：9時半～、11時半～、14時半～それぞれ約1時間実施

### 3/28 (土) フォーラム「居住支援の推進にむけて」開催

主催者の「居住支援を考える国分寺の会」から、2022年10月に開始した居住支援相談窓口での対応状況の報告があり、その後、立川市における居住支援協議会や行政の支援体制について、業務受託しているNPOの方からお聞きしました。「住宅確保困難者」(高齢者、低所得者、障害者、子育て世帯、被災者など)のために、国交省と厚労省が連携して推進している居住支援協議会の設置ですが、国分寺市にはまだありません。50名ほどの参加者からは「自治体の協力が不可欠」「行政も民間も地域で暮らすことをささえるために協力したい」「行政の各部課が横につながってほしい」「多職種が連携して一緒に考えないといけない」などの感想が寄せられました。



### ●講演会のお知らせ● 「地域で学ぶことは、地域で生きること」 ～人生を1本の幹に～

かじ かつや  
お話：鍛冶 克哉さん  
(自立生活センター・メインストリーム協会 スタッフ)

1984年700グラムの未熟児で生まれ、その後、脳性まひと診断されました。障害の有無にかかわらず同じ教室で学ぶインクルーシブ教育の先進的な自治体豊中市で育ち、2003年よりCIL豊中(自立生活センター)で活動し、2010年より西宮で自立生活を開始。現在は障害者相談支援やモンゴル等への海外支援など、幅広く活動中です。

- 日時：2026年7月19日(日) 14:00～16:00
- 会場：都立多摩図書館 セミナールーム(予定)  
(JR中央線・武蔵野線「西国分寺駅」南口より徒歩7分)
- 問い合わせ・申し込み：国分寺・生活者ネットワーク  
kokubunji@seikatsusha.net



このレポートは、UDフォントを使用しています。

## 足元から問い直す、私たちの「日常」と「平和」の距離

スーパーの値札ににじむ不安は、私たちの家計の問題だけではなく、世界の平和が損なわれている現実そのものです。エネルギーや穀物価格の上昇や円安が生活コストを押し上げている厳しい現実。その背景には、武力行使によって多くの尊い命が失われ続けている国際社会の混乱があります。このあまりに過酷な状況を、「遠い国の出来事」として見過ごすことはできません。暴力が命を軽んじる世界の情勢は、物流や資源の連鎖を通じて、私たちの日常をも直撃しているのです。

「一時的な支援」から、  
若者の未来を守る  
「強い基盤」へ

このような物価高騰や社会情勢は、次世代の未来にも深刻な影を落としています。大学生の約半数が奨学金という負債を抱えて社会に出る現状において、経済的制約が学びや職業の選択肢を狭めています。若者が未来を消去法で選ばざるを得ない状況を変えるためには、高等教育の負担軽減や給付型奨学金の拡充、さらには住宅支援や最低賃金の引き上げなど、暮らしの土台を構築する抜本的な政策が今こそ必要です。

物価高への応急処置として交付金の追加による商品券配布などが行われますが、こうした対策はあくまで一時的な対応にすぎません。外的要因に左右されにくい経済構造を築くためには、エネルギーや食料の国内生産基盤を強化し、再生可能エネルギーへの投資や農業支援を「安全保障」の観点から強化し、暮らしの土台を構築することが不可欠です。

デジタル社会で見失われがちな「対話」という  
平和への回路

現代社会では、AIの普及

やデジタル化が急速に進み、生活は格段に便利になりました。その一方で、効率性が優先されるあまり、人と人が直接感情を交わす機会は減少しています。画面越しの情報交換は増えても、そこからこぼれ落ちる「雑談」や「立ち話」といった時間が失われ、人間関係の希薄化が進んでいることは否定できません。効率化できない「無駄」に見える会話こそが、実は他者への想像力を養い、社会の違和感を共有する出発点になります。日常の対話が失われることは、遠い国の紛争を「自分には関係のないデータ」として処理してしまうことにつながりかねません。

あなたは今日、誰と、  
何を話しますか？

和感を言葉にすること。それは、一人では見落としていた社会の課題に気づく契機となります。その気づきはやがて、制度や政策への関心へと広がり、自らの頭で考え、判断する力へと育っていくはず。この積み重ねこそが、他者の痛みに目を向け、誰もが安心して生き方を選べる社会を支える民主主義の底力となります。

ささやかな雑談から始まる「気持ちの交換」が、分断を越えて社会をつなぎ直し、遠いと感じた世界の悲劇と私たちの生活を結び直す確かな力になります。まずは、日々の生活で感じた小さな違和感を誰かに届けることから始めてみませんか。ぜひ、その声を私たちにも聞かせてください。一人ひとりの小さな歩みが地続きになり、平和へと近づく確かな道筋になると信じています。

(小坂まさ代)